CRASH NEWS vol.2

Christian Relief Assistance Support + Hope

〒194-0035 東京都町田市忠生1-8-8 町田聖書キリスト教会内　TEL.070-8487-6020　郵便振替 00110-3-290907

「希望」3.11を忘れません

多くの方々の熱い心に感謝

代表理事　永井 敏夫

当団体の創設者のジョナサン・ウィルソン師は、実に心熱きビジョンの人であった。団体として試行錯誤をしながら片肺飛行の感があったが、何とかしなければという思いで人々が磁石に惹かれるように集まった。緊急支援活動故にICSという現場指揮システムをとり、複数のセクションに分化し各自が日夜活動をしていた。

数々のミーティングがあり、日々刻々と変わる多岐に亘る必要への対応、決断、アクションにはスピード感が求められ、常に緊張感と困難が伴った。スタッフたちは宣教師方とバイリンガルの若者たちが中心で、時間、技術を精いっぱい献げて動いていた。時が経過し宣教師方の多くは本来のミニストリーに戻った。そうした中、疲れ果て、葛藤しつつ離れる決断をした仲間たちもいた。

被災地での初期の支援活動では、岩手県は宮古と一関、宮城県は仙台にベースを設け、福島県には栃木、茨城、宮城県から支援に入った。ボランティアたちが国内外から続々と駆け付け各ベースに派遣されていった。地域の教会やネットワークに協力しながら活動することを心がけてはいたが、実際には困難も少なくなかった。やがてベースの活動は各地域支援ネットワーク等に引き継がれていった。

スタッフとボランティアたちによる朝のディボーション、夜の振り返りの時間は、全ての活動の命綱であった。その際に地域の為にささげられた祈りは、その後の種まきに繋がっていると信じている。全てのボランティア、スタッフたちに祝福あれ。

私はリエゾン役を託され各ベースのスタッフたちや現地の牧師方、諸ネットワークに繋がりながら、それぞれの思いや考えを伺った。またベースと本部との調整や連絡をし、スタッフたちの話を聞き祈る日々だった。震災以来、地域のネットワーク集会、3.11追悼記念コンサート等で牧師や働き手たちに会い共に祈ることは、私を励まし続けた。

2011年以後も日本各地で災害（地震、土砂災害など）が発生したが、その度に私たちは現地を視察し、九キ災などの地域ネットワークに協力しながら、ボランティアセンターのサポート、スタッフ、牧師方の思いを伺い祈りの時を持ってきた。

一方私たちは「防災」にも焦点を当て、首都圏ではDRCネットやJEA援助協力委員会などと協議しながら、防災ネットワークの誕生と活動を励まし、広域フォーラムを開催してきた。加えて傾聴セミナーや被災者ケアワークショップの開催をし、諸団体と協力しながら、災害対応チャプレン研修会などに継続して参加し協力をしてきた。

クラッシュジャパンは不思議な器だ。ある時は点であり、器であり、生きた生命体のように動くこともある。そのエネルギーは、主を愛し、主の愛を携え災害時に支援に立ち上がる人々の心にある。これからはネットワークを生み出し、繋げていくための柔軟さが更に求められていくように思う。当団体の全ての活動で主の御名が崇められますように。

人々の熱い心でなされてきた祈り、献金、参加があってこそ、私たちのひとつひとつの活動がなされてきたことを改めて主に感謝したい。

CRASH JAPAN 10年の歩み

未曾有の東日本大震災が発生した二日後の3月13日（日）午後、ジョナサン・ウィルソン師の呼びかけに応えた人々が東久留米にある松川プレイスに続々と集まりました。この時から災害緊急支援活動がスタートしました。7月には理事会と社員総会が開かれ、一般社団法人格を持ち歩み始めました。

国内はもちろんのこと様々な国々から数え切れない数のボランティアたちが、被災地域に派遣され、救援・復興支援活動に従事しました。5ヶ所に設けられたベースにはスタッフたちが常駐し、ボランティアたちを受けいれて活動をしました。

また心のケアの必要性が増す中、傾聴活動のチームが派遣され、更に諸団体と協力してセミナーを行ってきました。やがて地域にある支援ネットワークに機材や物資を委ね、ベースを閉鎖しました。その後は、地域のネットワークミーテイングに参加し、とりなしの祈りをささげてきました。

■その後の被災地支援

2013年11月 伊豆大島土砂災害　視察、ミーティング、広報　伊豆大島で教会支援ネットワーク誕生

2014年8月 広島市土砂災害　広島宣教協力会
視察、ミーティング、スタッフケア

2015年9月 鬼怒川氾濫（常総市）　視察、ミーティング、モバイルカフェ、SA・FHの支援活動に協力

2016年4月 熊本地震　九キ災　視察、ミーティング、ボランティア募集と派遣　ボランティアセンターサポート
ボランティア・スタッフのディブリーフィング、牧師面談、リトリート

2018年7月 西日本豪雨災害（呉市、倉敷市真備町）
広キ災・呉ボラセン　岡キ災　視察、ミーティング、センターオペレーションサポート、ディブリーフィング
心のケアセミナー

2019年9月 佐賀台風被害　九キ災　視察、ミーティング、センターサポート、ディブリーフィング

2019年10月 千葉館山台風　安房支援フォーラム
視察、ミーティング、センターサポート、OBJと協働サポート、救世軍、広キ災、サマリタン協働 屋根修繕プロジェクト

2019年10月 長野県千曲川氾濫　北信キ災
センター訪問

2020年9月 台風10号　九キ災　ミーティング、ディボーション、スタッフディブリーフィング（ズーム）
救世軍、広キ災協働　人吉重機プロジェクト、

キリスト聖協団仙台宣教センター　中澤 竜生

“あなたにとっては闇も暗くなく夜は昼のように明るいのです。暗闇も光も同じことです。”
詩篇 139篇12節

東日本大震災当日は誰も想定していなかった深い闇でした。現地はただただ恐れと不安に付きまとわれていました。そんな時、クラッシュジャパンがいち早く活動されます。早朝から深夜近くまで、連日何台もの車を走らせ現地に向かいます。仙台ベースに帰還する度、スタッフは涙を流し、暗黙の内に部屋に入っていかれました。ある日、彼らに押されて現地へと向かいます。あの悲惨極まりないところで、スタッフに向けて笑顔で話される被災者が何人もいました。まさに彼らは明日に繋げる光となっていた。つまり生きる力を与えていたのです。彼らは悲しむ人たちの要望に応えるために寝る時間も惜しんで働いたのでした。それにしても災害直後にも関わらず、他県より速やかに集結し、活動された事には驚かされました。確かどこの支援団体よりも早かった。またほとんどのメンバーが外国人であった事にも驚きました。その方々が、被災地に何がなんでも向かうぞという熱意が見受けられました。私は支援のイロハをそこで学んだのです。今あるのも、気概を見てきたからだと思います。今年で10年。当時と変わらず、その精神を大切にしたい。感謝

クラッシュジャパン 監事　小坂 叡華

2011年3月11日14時46分私は四谷にあるオフィスで、ものすごい揺れに怯えながらコンピューターが倒れないように抑えていました。

数日後、アメリカの娘からクラッシュと言う働きが、災害支援に当たってるから調べてみたらと言う連絡をくれました。知り合いの宣教師の方がいましたので、クリスチャンアカデミー内の事務局を訪ねたのが、クラッシュとの出会いでした。早速、5月からの認可を受ける準備をスタートしました。7月には一般社団法人の認可を受け、私は財務理事としての役割を担う事になりました。立ち上げの様子は、日本在住の宣教師や協力団体からの牧師たちが、国内外からの被災地ボランティアの派遣連絡に追われ、事務所はいつも熱気あふれる混雑状態でした。一か月後、私は当時の代表のジョナサン・ウイルソン師達と被災地に分かれていた全てのベースを車で訪問し、必要をインタビューしてまわりました。

ハードスケジュールでしたが、今も心に残っています。そこで音楽家を募って各避難所での支援コンサートを、200回ほど実施しました。又チャリティコンサートをイギリス・フランスでも開催し、支援を訴え協力を要請しました。日本は世界でも有数の災害国です。毎年のように様々な災害に見舞われています。クラッシュジャパンの働きは、様々な団体とネットワークを築き日本だけでなく海外の支援にも心を向けています。東北大震災10年の追悼を迎えるコロナ禍の今年、再び大きな余震が被災地を襲いました。立ち上がる力が与えられるよう切に祈ります。

クラッシュジャパン 理事　山田 智朗

私が所属する日本ホーリネス教団では、2005年度に「緊急支援対策室」が設置され、2007年7月に発生した「新潟県中越沖地震」の時から、ボランティアチームによる災害支援活動をCRASHとの協力により行って来ました。

これは当初、私たちに組織的な災害対応の経験がほとんどなかったことが主な理由でしたが、同時に災害発生時に各団体が、被災地での活動を個々バラバラに行うのは非効率であり、長期の支援活動を行うことが難しいことや、被災地側にとっても対応が煩雑になる等のデメリットを考えたためでもありました。災害発生時、迅速かつ効率的に長期の支援活動を進めるためには各団体の協力が不可欠であり、ハブとなる組織が必要です。

東日本大震災発生時、私たちの周囲で、そのような働きを進めようとした組織はCRASH以外に見当たりませんでした。だから私たちの教団は、CRASHと共に災害支援の働きを続けてきたのです。もちろん、これまでのCRASHの災害対応に問題点や課題がなかった訳ではありませんし、近年では災害対応の枠組みも変化してきています。

東日本大震災から10年が経過した今、それぞれの団体がそれぞれの立ち位置を再確認し、共に働くシステムの構築が求められていると思います。

クラッシュジャパン 事務局長　山尾 研一

私が代表を務める町田防災ネットワークは、2015年1月に発足し、私個人も6月からクラッシュジャパン（以下CJ）の理事（と2019年からは事務局長も兼務）の立場で、奉仕を続けさせて頂いています。

災害時の現場経験が浅い私が、その後に起こった2016年の熊本大地震以降の大規模災害時に、CJのスタッフとして被災地に派遣され、現地で沢山の方々から教えを受け、経験を積ませて頂き今に至っています。

この原稿を執筆時（2/14）にも、震度6強の地震が福島沖で発生しました。いつ南海トラフ地震や首都直下型地震が起きてもおかしくない中で、平時の備えと災害発生時の初動の協力体制の構築は待ったなしの状況です。

では、どうしたら防災減災の為に地域単位で教会防災ネットワークを立ち上げることが出来るのでしょうか。

CJでは、ネットワークの立ち上げ支援をさせて頂いています。同時に、災害発生後の心のケアも大切な事柄ですので、誰でも研修を受ければ被災者や支援従事者のサポートが出来るように、今後新たな研修プログラムの開発と紹介にも携わっていきたいと願っています。

災害の備えは、すべての人の共通の課題です。

CJでは、被災地の人々と諸教会にお仕えする為にも、他団体との協働も含めて独自の活動を続けて行きたいと願っています。

2011年10月　各ベーススタッフの集合写真

コンテナから水を降ろす作業

ボランティアたちが
身につけていたビブス

はじめのオフィス（東久留米市松川プレイス）

2017年11月　福島県キリスト教連絡会

熊本地震災害支援に集まった諸支援団体のみなさんと

★3.11 記念座談会ビデオ

東日本大震災から10年の今 ～主の恵みを 覚えつつ、これからを考る～

2011年3月11日に発生した東日本大震災から10年目を迎え、クラッシュジャパン（以下CJ）の歩みの振り返りとこれからの働きについてズーム座談会が行われました。参加者は、ジョナサン・ウィルソン師（CJ創立者）、中澤竜生師（地域支援ネット架け橋）、山田智朗師（日本ホーリネス教団緊急支援対策室長）、永井敏夫（CJ司会）。YouTubeでご覧下さい。

https://www.youtube.com/watch?v=6RiPWe7nmvg

★Reflect & Reconnect

2011年3月の東日本大震災の時に、クラッシュを通して災害支援に従事した当時のスタッフやボランティアの方々にZOOMセッションに招待し、4つの会合（日英通訳付き）で207名の参加がありました。以下、参加者からのコメントを一部紹介いたします。

参加者からの感想

■一緒に働いてたボランティアと久しぶりに再会出来たこと。■普段の生活でふり返ることができなかった10年前の経験をふり返って、今にどのようにつながっているかを思巡らすことができました。また、みなさんが聴いてくだり、うなづいてくださったり、分かち合を聴ことで、自分の心がもう一度探られ、思い起こすとで受けとめる機会になりました。■かつての戦友と再会し、苦労話が出来たこと。

【ご支援に感謝】献金でCJの働きを支える

▶郵便振替　00110-3-290907

What's CRASH JAPAN?

Christian　（クリスチャン）
Relief　（救援）
Assistance　（協力）
Support +　（支援）
Hope　（希望）

サポート会員ご登録のお願い

年会費 /　（個人）1口3,000円
（団体）1口5,000円
※運営のために用いられます。

活　動

私たちは、東日本大震災以後も日本各地で発生したさまざまな災害発生の際には、地域教会や教会ネットワークと協力してボランティア派遣、ボランティアセンターの運営、ボランティア・ケアなどの支援をしてきました。他にも首都圏を中心に誕生している8つの教会防災ネットワークへの協力や諸県の教会や教会ネットワークが開催する心のケア・セミナーへの協力などをしています。

協力・連携

私たちは他の諸団体と連携して活動することを心がけ、日本福音同盟（JEA）、キリスト全国災害ネット（全キ災）、Japan Evangelical Missionary Association（JEMA）などと協力関係にあり、JEA援助協力委員会のオブザーバー会員です。又、クラッシュジャパンの信仰基準はJEAの信仰基準に準じています。

組織・運営

■事務局

運営委員会：永井敏夫、山田智朗、内山忠信、山尾研一、
スタッフ：カレン・エルリック、松下郷子、郭ヘレン、
マイケル＆ユミ・クリード、

■役員（理事・監事）

理事：永井敏夫（代表）、山尾研一（事務局長）、
ケン・テーラー、有山敏、樋野興夫、山田智朗、内山忠信、
監事：小坂叡華、三浦寿夫（2021年4月1日現在）
※小寺徹師が3月末をもって退任されました。
長期にわたるご奉仕に心より感謝申し上げます。

事務所移転のお知らせ

★新住所 〒194 -0035 東京都町田市忠生1-8-8
（町田聖書キリスト教会内）
Tel　070（8487）6020 ※電話番号も新しくなりました
Email contact@crashjapan.com

facebook
https://www.facebook.com/crashjapan/